

産業常任委員会の記録

(ふるさと創生課)

招 集 年 月 日	令和5年9月5日 (火)
招 集 の 場 所	松野町議会議場
開 会	9月8日 (金) 午前10時34分
閉 会	同 上 午後11時35分
出 席 委 員	安西 博文、山崎 匡、加藤 康幸、森岡 健治、赤松 紀幸、 山石 恭助、山田 寛二
欠 席 委 員	
付 議 事 件 説 明 の ため 出 席 し た 者 の 職 氏 名	町長 坂本 浩、副町長 八十島 温夫 課長 井上 靖、課長補佐 石田 和弘、課長補佐 土居 孝二郎
職 務 の ため 出 席 し た 者 の 職 氏 名	議会事務局長 大谷 吉廣、書記 岡崎 智恵子
付 議 事 件	1 認定第1号「令和4年度松野町一般会計歳入歳出決算の認定につ いて」

安西委員長	<p>ただいまから、ふるさと創生課所管の付託案件の審査を始めます。</p> <p>認定第1号「令和4年度松野町一般会計歳入歳出決算の認定について」、ふるさと創生課所管分の審査を行います。</p> <p>担当課長に説明を求めます。</p>
井上課長	<p>認定第1号、令和4年度松野町一般会計歳入歳出決算の認定について、ふるさと創生課の所管分を説明いたします。</p> <p>成果説明書は63ページ、決算書は41ページになります。</p> <p>商工観光部門の決算について説明いたします。</p> <p>5款、1項、1目、労働諸費の決算は0円です。</p> <p>成果説明書は77ページ、決算書は46ページになります。</p> <p>続いて、7款、1項、1目、商工総務費の決算は、16,042,232円であり、職員の人件費、ふるさと創生課内に設置している消費生活相談窓口の会計年度職員の相談員1名の報酬等が主なものです。なお、消費生活相談窓口には、一覧表の内容で年間で19件の相談が寄せられており、そのほかにも防災無線等による広報周知、相談員スキルアップ研修会の開催、松野町地域包括支援センターとの連携による多世代に向けた消費生活相談や悪徳商法の被害防止に努めております。</p> <p>成果説明書は78ページ、決算書は46ページになります。</p> <p>2目、商工振興費の決算は、163,280,873円です。</p> <p>9つの項目に分けて説明いたします。</p> <p>まず1点目には、松野町商工会との連携によるまちづくりとして、法定会員数108名、定款会員数10名、特別会員6人、合計124人の会員を有する松野町商工会と連携して、各種補助制度を活用しながらまちづくりに取り組んでいます。</p> <p>令和4年度では、商工会の組織力の強化等に資するための団体育成補助金5,000千円を支出しているほか、商工会が中心となって地域の賑わい創出に取り組み、商工業の活性化につなげる事業として、年末年始の駅前通りのイルミネーション、町内各所での花いっぱい運</p>

動や清掃活動などの環境美化活動、ゆかたまつりや棚田まつり、松丸駅前での軽トラ市を5回開催等に取り組んだ地域総合振興事業に補助金650千円を支出、新型コロナウイルス感染症の影響による商工業対策として消費喚起キャンペーン事業に補助金5,346,487円を支出し、抽選券発行換算で155,025千円の消費喚起を得ております。

次に、2の中小企業振興資金の融資斡旋と、3の利子補給補助金につきましては、企業の育成振興を図ることを目的に融資需要に対応するため、松野町中小企業振興資金融資条例に基づき融資斡旋を行いました。新規融資に4件、14,000千円、また、利子補給については、中小企業振興資金、日本政策金融公庫資金の制度資金の借入者に対して規程の利子補給を行ったものであり、19件、690,800円の利子補給を行ったほか、中小企業振興資金完済者の保証料補給に7件、419,500円、感染症対策資金利子補給補助金に3事業者267,370円の利子補給を行いました。

成果説明書は78ページになります。

次に、4の被災中小企業者等復旧資金融資利子補給補助金につきましては、平成30年7月豪雨災害で被災し、事業活動に支障の生じた事業者が復旧に向けて借り入れた融資の利子に対し、6件、140,200円の利子補給を行いました。

成果説明書は79ページになります。

次に、5の松野町新型コロナウイルス感染症対策緊急地域雇用維持助成金につきましては、感染症拡大の影響により一時的に休業を余儀なくされながらも、従業員の雇用継続を図ろうとする事業者に対し、雇用の安定及び事業活動の継続を図るため助成したもので、1事業者に617,347円を助成しています。

次に、6の松野町新型コロナウイルス感染症対策事業継続支援補助金につきましては、感染症拡大の影響により、事業活動に影響を受けた事業者の事業継続を支援するため、21事業者に、6,420,2

13円の補助金交付を行いました。

次に、7の松野町原油価格高騰対策運送事業者等支援補助金につきましては、原油価格高騰に影響を受けている運送事業者等を支援するため、2事業者に対し1,084千円を助成したものです。

次に、8の松野町観光宿泊事業者応援事業費補助金では、感染症拡大の影響による町内観光・宿泊事業者対策として、宿泊の利用、体験メニューの利用に対し、観光・宿泊事業者を通じて支援をするものであり、10事業者を通じ、12,496人の利用があり、54,135千円を交付したものであります。

成果説明書は80ページになります。

次に、9の森の国松野町地域応援商品券配布事業では、感染症拡大及び物価高騰により疲弊した消費を回復させることを目的として、松野町商工会に補助金を交付して、商品券配布事業を行いました。

本事業では、消費喚起対策分10千円、物価高騰対策分10千円を全世帯に配布し景気の下支えを行いました。

また、令和5年3月には、本町の中小企業・小規模企業の振興についての基本となる、松野町中小企業・小規模企業振興基本条例を新たに定め、中小企業・小規模企業の成長発展及びその持続的発展並びに地域経済の活性化を加速させようとしています。

成果説明書は80ページ、決算書は47ページになります。

続いて、3目、観光費は、170,056,248円の決算額です。

12の項目に分類して説明いたします。

まず、1の住民との協働による観光振興プロジェクトの実施については、1件の事業を採択し、248,684円を補助金として支出しています。

次に、2の予土地域連携における観光交流による地域活性化施策の実施については、松野四万十サイクリング2022を開催し、道の駅虹の森公園まつのから滑床溪谷までのコースを設定し、田園風景や溪谷の自然景観を、活かしながら、地域の特産品や料理を楽しめるイベ

ントを実施しました。

なお、残念ながら自転車業界で全国的にも有名となっている松野四万十バイクレース、通称MSBRや、地域の歴史文化資源を活かした戦国武者伝走については、新型コロナウイルス感染症の影響で開催できませんでしたが、来る令和5年度においては、松野四万十バイクレース、松野滑床サイクリング、戦国武者伝走について開催の方向で企画中です。

次に、3のJR四国と連携した観光交流施策の実施では、JR予土線を貴重な地域資源として捉え、予土線利用促進対策協議会やJR四国、関係機関団体と連携し、JR松丸駅内での観光案内や松野町紹介映像の連続放映、JR予土線において自転車の混乗事業であるサイクルトレイン運行支援、遠足等の運賃補助など沿線の集客力向上を目指した事業を展開しました。

成果説明書は81ページになります。

次に、4のグリーンツーリズムの推進では、森の国グリーンツーリズムクラブを中心に、農家民泊や体験メニューを提供し、11月には、高校生の修学旅行の受入れも行いました。

次に、5の滑床まつりの実施では、実行委員会形式で、各主催団体の自主的な企画運営によって、8月に滑床溪谷でのあまご釣り大会と、3年ぶりの森の国の夏まつりを開催しております。

次に、6の観光PRの推進については、報道機関や雑誌、専門誌などの各種メディアや、SNSを中心にインターネットでのPR、県内報道機関への効果的な情報提供、公式観光パンフレット「まつの日和」の第3号を発刊しました。

次に、7のえひめ南予きずな博については、平成30年豪雨災害からの創造的復興に向けて頑張っている南予のPRと復興で生まれたきずなの強化や交流の拡大を図るため、令和4年4月から12月にかけて、えひめ南予きずな博を開催しました。

本町において主なイベントとしては、南予BBQフェスティバル in

松野を開催し、2,000人を超える集客がありました。

その他、冬季に道の駅虹の森公園まつのでウィンターイルミネーションを開催し、集客力の向上を図りました。

成果説明書は82ページになります。

次に、8の観光施設の管理運営につきましては、施設の工事や改修、修繕につきましては、成果説明書に記載されてあるとおりですが、主なものとして工事につきましては、森の国ぽっぽ温泉の循環ポンプ等改修工事、森の国ぽっぽ温泉の排煙除去装置設置工事、国立公園滑床溪谷の出合滑橋整備工事等を行っています。

修繕につきましては、アの森の国ぽっぽ温泉屋上塀撤去や庇修繕、エの森の国ぽっぽ温泉脱衣室等内機分解洗浄修繕などを実施しております。

次に、町有の観光施設の管理に指定管理や制度を採用し、その指定管理料として、NPO法人森の国ネットが管理する観光案内所へ3,800千円、万年荘・公共施設へ6,000千円、株式会社まちづくり松野が管理する河川公園施設及び森の国ファームへ45,500千円、株式会社トモニーえひめが管理する、ふれあい交流館温浴部門へ11,800千円を歳出しています。

次に、観光施設の維持管理に係る主な費用につきましては、道の駅虹の森公園魅力化プロジェクト委託料に660千円、県境休憩所トイレ清掃に208千円、観光案内看板2か所の作成委託758,670円、駅連絡通路施錠管理委託料200千円、大門温泉配管滅菌委託料1,210千円、国立公園清掃活動事業委託料422,610円、などを支出しております。

成果説明書は83ページになります。

次に、滑床養魚場の管理については、感染症拡大による厳しい環境下ではありましたが、アマゴとニジマス、鮎の養殖を中心に、近隣の宿泊施設への販売に取り組んだほか、愛媛県水産研究センター栽培資源研究所との協働による海面養殖用のアマゴ・ニジマスの試験養殖

や、成長過程の研究を実施したところです。

また、宇和島水産高校とFM愛媛との産官学連携による、アマゴとニジマスの新商品開発の取り組みをスタートさせ、まずは、ニジマスのアヒージョ缶詰を県内外で販売をスタートさせました

滑床養魚場の収支状況ですが、表にもありますように、総収入3,031,035円、対する支出は3,688,030円であり、収支差額はマイナス656,030円という状況です。

収支状況を改善できるよう、令和5年度においては新商品の開発や新たな販路開拓に取り組んでいるところです。

次に、9の備品購入費については、総額9,370,280円であり、その主なものとして、道の駅虹の森公園レストランにガス給湯器385千円、ウォーターサーバー499,400円、コミセンにクライミングシューズ用下駄箱127,600円、滑床養魚場ガス赤外線グリラー164,340円などを購入しております。

成果説明書84ページになります。

次に、10の道の駅虹の森公園まつのパン工房施設整備事業では、道の駅虹の森公園まつの休憩スペースを、パン工房として整備し、屋号を、町内小中学生から公募した名称「&パン」として令和5年3月25日にオープンしました。

総事業費は、工事請負費18,150千円で、その他、厨房備品、セミセルフレジ等を整備しています。

次に、11の各種団体と連携した観光交流施策の推進では、えひめ南予きずな博実行委員会や旅南予協議会、愛媛県との連携をはじめ、観光諸団体、自然公園関係の負担金のほか、近隣自治体と連携して広域的に観光事業を推進するため、予土県境地域連携実行委員会や奥伊予街道七駅物語事業推進協議会などに対し、負担金や会費を支出しています。

また、滑床まつり開催費として、実行委員会に1,200千円の補助金を支出しています。

次に、12の地域おこし協力隊の導入では、観光まちづくり分野の協力隊員3名が活動しており、それぞれの隊員が地域資源の掘り起こしや観光資源のネットワーク化を目的に活動し、地域住民と交流・連携しながら地域活性化に取り組みました。

続きまして、本課の関係する歳入についてご説明いたします。

決算書10ページをお開きください。

13款、1項、3目、1節、観光使用料797,659円は、放流用アユの稚魚の養魚場使用料と釣り堀用貸し竿の使用料です。

決算書12ページをお開きください。

14款、2項、1目、5節、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金のうち、ふるさと創生課分は、105,217,044円を歳入決算しており、事業継続支援事業、原油価格高騰対策運送事業者等支援補助事業、観光宿泊事業者応援補助事業、地域応援商品券配布事業、消費喚起キャンペーン事業等の財源としています。

決算書15ページをお開きください。

15款、2項、5目、3節、商工振興費補助金19,031千円は、愛媛県と松野町が連携して取り組んだ、愛媛版応援金事業の財源としています。

決算書17ページをお開きください。

16款、2項、3目、1節、生産物売払収入2,233,376円は、養魚場のアマゴ、ニジマス等の販売収入です。

続いて、決算書18ページをお開き下さい。

20款、3項、1目、1節、貸付金元利収入6,000,119円は、商工費で預託していた中小企業振興資金融資預託金に利子分を含んだ金額で繰り入れたものです。

続いて、19ページをお開きください。

同じく、4項、1目、18節、国立公園清掃活動事業助成金416,210円は国立公園清掃活動推進の財源として受け入れたものです。

最後に、21款、1項、1目、1節、過疎対策事業債では、ふるさ

	<p>と創生課分として、ハード事業分として、虹の森公園施設整備事業に、29,500千円、森の国ぽっぽ温泉大規模改修事業に、26,700千円、滑床山岳レクレーション施設整備事業に、9,500千円を借り入れ財源充当しています。</p> <p>ソフト事業分としては、観光PR交流促進事業に、4,200千円を借り入れ財源充当しています。</p> <p>以上が、認定第1号、令和4年度松野町一般会計歳入歳出決算、ふるさと創生課分についての説明です。</p> <p>よろしくご審議賜りご承認いただくようお願いいたします。</p>
安西委員長	<p>担当課長の説明が終わりました。</p>
	<p>委員からの質問を許します。</p>
山崎委員	<p>滑床養魚場の件なんでございますが、何期か前の議会で特別業務分担、業務分追加という形だったですかね1人、人を応援の人というか、追加されたらというのが1回議案でとったと思うんですけど、養魚場見るに当たって、やっぱり後継者の育成っていうのが急務じゃないかなっていうのをすごく思っていて、その辺の後継者の育成ということを、どういう形で、今から取り組まれて、継続的に取り組まれているのかということをお聞きしたいのと、養魚場の古くなってやはりかなり痛んでる水漏れもひどいっていう状況を私は感じておるんですけどもその辺、大事な位置づけとして町として考えられるのであれば、その辺の改修もしくは、修理とかそういう部分に関してどう考えられているのかお聞きしたいと思います。</p>
井上課長	<p>現在の管理人の方、お元気に養魚場の管理していただいているんですが、やはり高齢になっていらっしゃいます。そこで、数年前より、後継者の問題について、御相談を受けていたところです。</p> <p>私どもとしましても、適任者の方、広く、皆さんに情報提供いただいたところでありました。幸い地元目黒におきまして、やってみようかという方がいらっしゃいましたので、現在、令和5年度の補正予算になるんですが、予算措置をさせていただきまして来ていただいております。</p>

ります。

その方、養魚場の管理の仕事以外にも、農業をされていたりとか、料理とかを提供することもされているということで、今後ですね、魚の蓄養に関してのノウハウを積んでいただくこと、そして業績をよくするために付加価値をつけて、販売をしたり、料理を提供したり、そういったところにも力を発揮していただけるように、今一生懸命取り組んでいただいているところでございます。

何分、生き物、そして採卵をして、ふ化をさせて、大きく育てるっていうのが、なかなかノウハウが、書物にはない世界であります。しっかりとですね、今の管理人さんから、いろいろなノウハウを引き継いでいただいて、しっかりとこの事業が持続できるように考えておるところです。

続きまして、持続させていくためには、施設の修繕等も必要でございます。水漏れがひどいというのが、30年以上来の古い池の戸水口なんです、早速、修繕のほうは、令和5年度中に、もう既に発注をさせていただいておりますので、若干改善をするんじゃないかなと思っております。また、先の監査報告の中でも御指摘がありました、建屋の管理棟の屋根ですね、こちらにつきましては、今後、こちらも来年度予算等で対応ができるか、そちらについても、これから研究を重ねてまいりたいと思っております。

山 崎 委 員

はい、ありがとうございました。ひとまずは、安心をしたところでございます。

やっぱり生き物ということ为先ほど課長も言われたようになかなかそのノウハウ的なものを引き継ぐということは、やはり経験が要るものだろうと思っておりますので、その辺しっかりしていただいて、また、養魚場の池に関しては、傷んだところを改修するのも必要だろうと思うんですけれども、老朽化はかなり来てるように私は感じておりますので、抜本的な改修という形も、長期的な視野に入れていただいて、今後そういう形で検討していただいたらと思います。

森岡委員

私からは、3点ばかりお尋ねいたします。

79ページ、観光宿泊事業応援補助金、これ1昨年ですね、5,000万、後で追加ということで、出しましたが、こういう結果になったことに関して、随分その当時ちょっと苦言を言わさしていただいたんですが、その後、約1万2,500人の方、そのとき私が言うたことを思い出してみると、この方の名簿があるんで、それを有効に、今年度使えるような仕組みを考えなさいよ、という言い方をした意見があると思いますが、このことに関して、令和4年度に5,400万余りの想定外の費用を出した、それに関して今年度、それに見合うだけの事業を計画したのか。今計画しているのか、その辺についてお伺いいたします。

で、これ観光費の中なんですけども、いろんなイベントされてます。サイクリングもそうです。バイクレースもそうです。武者伝走もそうです。この事業をすることを、いけんとかどうのこうのは言うつもりはありません。ただ、これが、町内の事業者にどのくらい経済効果がもたらしたのか、またつなぐ事業は出来たのか。これが一番大事なんじゃないかなと。これがなかったらただ単発で終わってるっていう、昨日私が文句言うたことになると思います。この辺について、が2点目。

もう1点が、三角ぼうしの交差点の看板が、これちょっと昨日、言いましたんであれなんですけども、ここへ看板、2ヶ所で75万8,000円とありますが、どう見ても、今朝も私あそこで見てきたのですが、これは観光で、いわゆる岡田蔵太郎さんの文言を知らせたいのか、松野町いうのを知らせたいのか。全然意図が分からないんですが、その辺の説明をお願いいたします。

井上課長

森岡委員さんの質問3点、答弁させていただきます。

まず、観光宿泊事業者の応援補助金の件ですが、決算が出まして当時最終的に、交付金をどれくらい充当するかとか、一般財源がどれくらいになるのかというのを、今回、決算の認定の中でありまして、

参考までに申し添えます。観光宿泊応援事業総額で5,424万584円の事業費です。そのうち、先ほど言いました、地方創生臨時交付金が、3,196万4,912円です。一般財源が2,227万5,672円となっております。この事業を実施しまして、利用者の状況等をいただきました。これに対して町としてどのように、これを生かすかというところがございます。町としては、今年策定を進めておりますDMOですね、観光まちづくりの仕組みをつくる事業を今行っているんですが、この中でこのデータっていうのは非常に大切なデータとして取り扱うことが出来ます。

松野町は、どこからお客様が来ているのかっていう状況、これは1番、喉から手が出る情報なので、こちらを十分に生かさせていただいたらと思っております。

次に各事業者様におかれましては当然、自分の会社に利用された顧客のお客様のデータなどで、それで十分に活用していただいているところです。少し、観光客を増やすっていう面とは違う視点で捉えている事業者さんも、実はありまして、事業者様とのヒアリングの中で、そこで受け入れる力を超えたお客様を受け入れると。お客様にとっても不利益だし、これは安全確保の面とかで、不利益だし、地元に住んでいる方も、人が来過ぎて、自分たちの行動に制限がかかってしまうんじゃないかっていう、いわゆるオーバーツーリズムっていう言葉がよくあるんですが、たくさん来ていただくのはすごくありがたいことなんですが、お客様の最終的な利益になるように、人数をある程度制限して、楽しんでいただくっていうことも大事なんじゃないかなと気づかれた事業者さんも実はいらっしゃいます。

そういったところで、松野町が、その時たくさん来てオーバーツーリズムになるよりも、10年後20年後と、持続していける観光地づくりになるようにという考えを彼らは持っているようです。そういったところで利用させていただいております。

次に観光の中でイベント、の考え方なんですけど、イベントって

うのはやはり、一過性になるおそれが十分にあるところでございます。そのためには、どれぐらいの波及があるかっていうのは、例を申し上げますと、去年、武者伝走と、松野四万十バイクレースは開催出来ませんでした。松野滑床サイクリングは実施出来ております。こちらにつきましては、当然、お昼御飯は地元のお母さんレストランが提供していただいております。金額もさることながら、松野町の食材とかそういった資源とかを十分に堪能していただいております。そのほか、万年荘でのお買物の費用、そして町内の自動販売機等でドリンクを買っていただきますのでそういったところの費用、中には、前日から宿泊されている方いらっしゃいますので、その方の宿泊費用、そういったところに波及が及ぶというところでございます。

私たちがこのイベントは、ある程度成果が残れば、次の段階にまた持っていこうという考えを実は持ってやっております。松野四万十バイクレースを例に挙げて申し上げますと、これは146キロ松野町と四万十市の国有林道を中心に走っていただく。日本で一番苛酷なレースと言われております。日本全国からたくさんのマウンテンバイクを乗るお客様がいらっしゃいます。今、これをやっているのは、もうこの松野町滑床とか、このあたりがマウンテンバイクで走る、最高の環境が整っているよっていうことを国内外にアピールする目的でやっております。次の段階って何だといいますと、私たちが今、考えているところは、万年荘から鹿ノコルまでの、滑床林道をガイドつきで、常にツアーとして、商品として、提供が出来ないかというところを考えております。

その前段階がこの大会、大会で知名度を上げて、恒常的にツアーを実施する。こういった段取りで次の段階は、つなぐ意識はと申しますと考えているところです。そうなりますと、波及としては、ガイドで雇用が発生します。お客様が来て年中来ていただくことで宿泊とか飲食とかの波及も発生すると考えております。

3点目、三角ぼうしに立ててある看板の碑ですが、これは我々松野

町で観光の事業施策をやっていく中で、常に考えさせていただいているのは、自然の保護と開発のバランス、これをしっかりと取っていくというところでございます。さらには近年は、この森にあそびこの森に学びて雨土の心に近づかんということで、学びとか、人材育成、そういった分野にも、この言葉をよく使わせていただいております。

施策を考えていく基本的な理念的なものとして、私たちは、この言葉をとらえさせていただいております。これをですね、町外の方にも、松野町を訪れる方にも、松野町って、このキーワードといいますか理念で、町の施策のうち、観光とか、開発とか保護とか、そういったところを考えてやってますよということをアピールをして、その理念をもとに、松野町を楽しんでいただくという考えを持っておりますので、町内外の方に、この言葉をどンドンと、露出を増やして、理解をしていただけるように、今後やっていきたいと思って、あそこの看板に記させていただいております。

森 岡 委 員

1 番目の、観光事業、宿泊事業のこととですね、このイベントに関してもそうなんですけども、町として、リピートが出来て、その次にその人に対してまたリピートができるか。このつながりが大事で、長期的な経済発展を取り組まんと、今過疎化が進み、だんだん衰退してる中で、どう松野町生き残っていくか。そういうことを考えたときに、そうなる松野町が生き残っていくためには、観光と言われたら、じゃ、食べる所、泊まる所どうするの。そういう取り組みまで進んでいかないと。ただ単純なもうイベントだけ、これ私、議員になって12年間ずっと同じなんですよ。同じ項目がずっと似たような感じ。内容が、文言は、事業そのものは、バイクレースなんかは、まだ新しいもので、ただ似たような感じ。何かこれはっていうものがない。この辺は、やはり町長、良く考えていただいて、町長松野町50年100年暮らせる、いうて言われますが、この辺が大事で、松野町として、ただ、練るだけよ。いうことになってしまうんじゃないかなという、そういう懸念から言うてますんで、その辺、よく考えて次の施策を考

えていただきたいなど。

それと、3点目の看板の話なんですけど、果たして、アピール出来るんやろか。私、本当に今日もずっと通るたびにぱっと思いついたときに、ぱっと見るんですけど、ぱっと見たときに、松野町ってどこにあるん、てもうよう見んまま通るんですよ。そしたら今日ようにゆっくり走りよったら、右上のほうにありました。なかなか松野町へ、町外の方があそこまで来て、どっちいこうか、今は車でナビがあるからいいかもしれんけど、そればかりがされてる人、ばかりじゃないと思います。そういうときに、どうなの。あの文言は。松野町をアピールするのか。その辺がもう少しあってもいいんじゃないかなと。まだ、例えば、以前はキャニオニングが載ってたかな。載ってなかったですかね、何か例えば、今の観光で言うたら、あそこ森の国松野町、キャニオニング滑床とか、逆にいうて松野町っていうのを、イメージはついてます。結構県外の人らあたりも、結構イメージをつけてますが、この看板そのものが、何か、何が言いたいのかっていう、それだけが、私の疑念に思うところです。

井 上 課 長

いろいろ御指導ありがとうございます。すごく、肝をついたところで、私も意見が一緒な部分のお話だったので、すごく参考になります。御指導ありがとうございます。観光と、今私たちが取り組んでる観光っていうのは、大量の人数、どんと来てもらって、御飯食べてもらってそのうちに帰るっていうような、いわゆる物見遊山的な観光というのではなくて、最初は1泊でもいいですけど、それが1週間になり、次は、1か月なり、最終的には3か月とか、複数拠点で生活するようになり、で1番最後は移住をしてもらうっていうような、何回も何回も来ていただくっていうような、方をつかんでいくっていう、観光施策に取り組んでおります。山田議員さんの一般質問の答弁の中でも、少しお話をさせていただいておるんですけど、観光と移住っていうのは、すごく親和性の高いというか、行政目的が同じところにあるんだろうなということ、私たちは今考えながら、いろいろな政策に取り組んで

いるところです。

観光と移住の分岐点がどこなんだろうかなあというところを考えております。その中でやっぱり最初食いついていただくためにイベントを打つ。いろいろなキャンペーンを打つ。で、2回目来てもらう3回目来てもらう。そういったところで、決め手になるのがやっぱり松野町のおもてなしだと思っております。

つい先日まで松山大学と立教大学の学生が、松野町でゼミ合宿をやっていただきました。1週間8月31日から9月6日までです。その間、いろいろな経済波及があります。もう一つ大きい経済波及以外の大きな波及は、学生の皆さんが、住民の方とヒアリングしていく中で、いろいろ勉強にもなるんですけど、口々に言っていたのは松野町の人のおもてなしとか、優しさとかそういったものにすごく触れて、これがいい町だなっていうことを、口々に言ってもらいました。これの積み重ねがどんどんリピーターを増やして行って最終的に移住につなげていくということだと思っております。今、目黒に多くの方が今維持をされております。この方々口々に言うのは、この森で生活をしたいっていうことをよく言われます。森っていうんですね。私たちも森に住み始めたとよく言われます。この理念っていうのをしっかりと伝えるっていうことは、今非常にやっていきたいところでございます。

最初に、あれなんだっていう、思われるかもしれませんが、何回も来ていくうちに、こういうことなんだということを知るようなことを目指していきたいということで、この森にあそびこの森に学びてということ、あそこにつけさせていただきました。

ただ、森岡議員さん御指摘のとおり、今、カーナビがあるから、ほとんどカーナビで来られるんですけど、松野町こっちよってという表示が、ちょっと小さく出ているだけなので、このあたりは少し、看板全体のデザインを見ながら、改善することも検討します。松野町はこっちってというのはやっぱりちょっと、かなりちっちゃめに載せておるので、その辺りは、デザインを害しないながらも、やっぱり少し、どう

<p>森岡委員</p>	<p>したらいいかなというのは、今後、課題として宿題として、持たせていただければありがたいです。</p> <p>もうこれで終わりですって言うってちょっと申し訳ないんですが、私文句ばかり言いよるんなんですけども、一言、その特性要因、いわゆる木の幹いわゆる幹の姿に、いわゆる枝がありますよね、枝に。だから幹はメインは何を進めるのと、そこに枝がついてくる、枝には何が要因が出てくる。これをやって、木を大きくしていくっていう、そういう計画を立てていただきたいと。それだけ思っております。</p> <p>あと町長、申し訳ないです。感想ございましたら、以上で終わります。</p>
<p>坂本町長</p>	<p>私も今の答弁といいますか、応対をね、すごく真剣に聞いてきたつもりでございますけれども、今からリピーター確保ということで昨年度実施しました。応援事業のデータというのは、これはもう私も重要な貴重なデータだと思っております。ただ、行政が生データ一人一人の、この個人データをもとにして、例えばDMを送ったりというのは、これは個人情報保護の見地から出来ませんので、それぞれの事業者のほうで対応していただくということになるかと思っております。</p> <p>このことは、参加していただいた事業者にも今1度徹底をしたいというふうに思っております。</p> <p>もう1点イベントなんですけれども、やっぱりイベントで周りくどいやり方になるかもしれませんが、少しずつでも町のイメージをアップしていく。露出度を高めていくというのは、私は、必要なことだというふうに思っています。ただ、そこから一步進んで商売につながる、例えば飲食店でありますとか宿泊施設、運送業者、そういったところは、残念ながら直接町のほうでは出来ないんですね。私も商売人の息子ですけれども、そういった商売を行政がやることは、これはなかなか難しいことだと思っております。</p> <p>私たち行政にできることは、そういった事業者あるいは、起業を希望する方々の補助エンジンになること、あとをしっかりと背中を押し</p>

てあげることだというふうに思っています。その点につきましてはこれからも、そういった意思のある事業者、あるいは既存の事業者で存続をしたいという方、そういうことについては一つ一つケースバイケースで、応援をしていきたいというふうに思っています。

最後、看板の件なんですけど、どうしても先ほどから出ておりますように、これからのそういったイメージ戦略はですね、直接松野町がどっちにあります、とかいうのはもうカーナビのほうでやってもらいますんで、どれだけインパクトを与えるかっていうことになります。このやり方につきましてはそれぞれ好き嫌いがありますし、効果のほうもそれぞれの感性で御判断していただくということになろうかと思えますけれども、私も看板見たときに、和菓子屋の看板かなというふうに思ったんですけども、そうじゃなくて、そのメッセージは、先ほど課長が申しあげましたように十分意味のあるものだというふうに思っています。ただその見せ方、表現の仕方につきましては、これから考えていきたい、改善が必要であれば改善をしていきたいというふうに思っております。

山 田 委 員

成果表の80ページに、関連してるんですけども、その中でJR予土線を活用した観光事業の推進ということで、先ほど来いろんなイベントをされておるということは、認識はしとるんですけど、ちょっとこと完全に一致はしてないんですけど、JR予土線存続の取り組みという意味で、ちょっと私が所属している予土歴史文化研究会では、JR、国鉄、前の宇和島鉄道ということであったんですけど、宇和島鉄道が大正12年12月12日に、それまで近永駅までは開通してたんですけど、近永駅から吉野生駅まで、旧吉野ですね、吉野駅まで開通したのが、大正12年12月12日、それから数えてちょうど今年が100周年ということになりまして、そこで予土歴史文化研究会を中心に、実行委員会を立ち上げて、100周年の記念事業をやるということで、計画をしております。その中で町からの予算化とか、社協からの補助金とか、また最近、町内の各企業に寄附金をお願い

井 上 課 長

して、お金をちょっと確保してるんですけども、そこはまた置いて、要は予土線の存続ということでいろんな取り組みがされていると思います。我々がやろうとしておるのは、一過性というかね当然その時だけのイベントになると思うんですけど、それで、たくさんの方にもし来ていただくのであれば、その中で予土線の存続ということについても、また、みんなで考えていただける機会が持てるのかなということは考えておるんですけど、要は行政として、この予土線を存続させるために、今後どのような形で取り組んでいくのか。

また、官民一体でやっていくのかということもあると思うんですけど、そこら辺の、お考えがあればまたお聞かせいただいたらというふうに思います。

総務委員会のほうで、少し、予土線の存続等につきましてはお話をさせていただいたところでございますが、今年、100周年を迎えます。これは宇和島鉄道ですが、2月予土線が宇和島駅から、窪川まで延伸した50周年になると記憶をしております。今を生きる私たちが考えているところは先人の方がどのような思いで、線路をここまで引っ張ってきたか、あるいは窪川まで延伸したかっていうのを、強く、思いを思わなくてはならないと思ってます。また、それから、今日に至るまでその列車の中で、列車というのはやっぱり移動ニーズを満たすひとつの道具でありますから、どんな思いで、皆さんが鉄道に乗って、移動していったのか、あとは、列車の中でどんな出来事が起こったのか、いろんな人生模様といいますかそういったものがあるかと思います。

もはや鉄道、予土線に関しましては鉄道、移動の手段だけではなく文化、生活文化の一部になっているんだろうなと感じております。幸い、今松野町にいる、高校生たち、一般社団法人松野イズムプロジェクトメンバーの子たちもCM大賞の中で、僕らの青春予土線ということで、そういった直接的に鉄道を守ってね、守ろうよ、残そうよではなくて、そういった生活文化のとことか、先人の方の思いとかがついで

うのを上手に表現してもらって、CM大賞をとって、県内に200回
流れるってということもあります。すごく良い子供たちに育っているな
と思っております。学校の先生がた、町内の皆さんの指導のおかげだ
と思っております。そういったところも、十分感じながら、かく言う
私も鉄道で育てられた1人ですから、しっかりとこの移動ニーズ、移
動の手段を残していくことと、生活文化の面でも、残していくという
ことはやっていきたいなと思っております。

それには、先日も申し上げましたが、愛媛県の協議会と高知県の協
議会、一体にします。1つにして予土線の中で、高知県愛媛県それで
関連する自治体協力して、利用促進を図っていきたいと思います。民
間の方も、どんどん動きを始めております。予土線圏域のあしたを考
える会という団体も結成されております。非常に活発に動きを始めて
いただいております。そのほか、高知県側でも、高校生を巻き込んだ
取り組みというのが始まろうとしているやに聞いております。

官民一体となってですね、予土線存続というか、みんなで利用して
いくってことをやっていこうという動きがどんどん大きくなって
おりますので、そこをですね、御承知おきいただいたらありがたい
なと思っております。

令和5年11月12日山田委員さんも御所属の予土線赤松委員さ
んも所属されとると思うんですけど、宇和島鉄道100周年記念事
業、記念イベントも開かれると聞いておりますので、町としても、バ
ックアップしながら、予土線宇和島鉄道、より多くの人に耳に入れて
もらうということを、取り組んでまいりたいと思います。

山 田 委 員

いろいろ各種団体も含めて存続に向けての取組を活発にされてお
るということを今お聞きしまして、我々もそういった意味でというか
存続ということも含めて、先ほど課長言われたように、私ちょっと先
ほど言ってなかったんですけど、11月12日に、コミュニティセン
ターを会場にして、イベントを予定しておりまして、それを契機に、
皆さんに来ていただくということも、またいろんな機会でもPRもして

<p>安西委員長</p>	<p>いきたいなと思っています。</p> <p>やはり予土線存続のためには、赤字路線ですので、やっぱりみんなが利用するということを少しでもね、難しい面はあるんですけどそこら辺も心がけながら、みんなで赤字を少しでも減らせるような施策ができればなというふうに考えております。</p> <p>また今後とも、そういった意味で取組をよろしくお願ひしたいと思ひます。</p> <p>それでは、採決に移ります。</p> <p>ただいま審査しております、認定第1号について、原案のとおり御承認いただけますか。</p>
<p>安西委員長</p>	<p>(異議なしの声)</p> <p>賛成全員です。</p> <p>したがって、認定第1号「令和4年度松野町一般会計歳入歳出決算の認定について」、ふるさと創生課所管分は、原案のとおり認定すべきものと決定いたしました。</p> <p>会議の経過を記載して、その相違ないことを証するためここに署名する。</p> <p>令和5年11月16日</p> <p>松野町議会産業常任委員会委員長 安西 博文</p>